

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	志布志市
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
年代に応じた健康づくりの推進		D		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☒ ①健康づくりの推進	☐ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備			
☐ ③介護予防の推進	☐ ④在宅医療・介護連携の推進			
☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム、保険者シート等に基づく地域分析結果等				
高齢者等実態調査等によると、現在治療中または後遺症のある病気は、一般高齢者及び在宅要介護者ともに高血圧とする割合が最も高く、次いで一般高齢者では目の病気、糖尿病、在宅要介護者では筋骨格の病気、脳卒中がそれぞれ上位となっている。また、介護や介助が必要になった原因については、脳卒中（脳出血・脳梗塞等）とする割合が最も高く、次いで認知症（アルツハイマー病等）、骨折・転倒の順となっている。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等				
自らの健康状態や生活習慣を振り返り、健康的な生活習慣を確立できるよう年代に応じた健康づくり事業を実施し、各種健診の受診率向上に向けての取り組む必要がある。 自殺死亡率（10万人あたりの自殺死亡者数）が県及び国より高い傾向にある。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組)				
①各種健康づくり事業の参加率及び各種健診の受診率を向上させる取組を推進する。 ②女性がん検診については、医療機関での個別検診の対象拡大に取り組む。 ③中学生や市内の企業など対象者を広げたゲートキーパー養成に取り組む。				
4 取組の数値目標及び実績（R6年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①自殺者数／人数	①減少（R04：8人）	7人	-	-
②特定健診／実施率	②70.0%（R04：45.1%）	42.0%	-	-
③特定保健指導／実施率	③70.0%（R04：67.6%）	67.8%	-	-
5 その他実績（R6年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
①ゲートキーパー養成講座：13回/3,385人（中学生、高校生、市役所職員、事業所職員等） ②介護保険認定者の有病状況：心臓病65.4%、筋・骨格60.2%、認知症33.5%、アルツハイマー病25.2%確認				
6 取組と実績を踏まえた課題				
①令和6年度の受診率は、42%の見込みで、特定健康診査対象者の減少や後期高齢者の増加により、受診者数は年々減少傾向である。 ②特定保健指導実施率はここ数年横ばい状態で経過。メタボリックシンドローム該当者の割合は増加傾向にあり、効果的な保健指導につなげていない。				
7 課題を踏まえた今後の取組、改善策（R7年度～）				
①特定健診受診率増加の為、若年層（39歳以下）、40～64歳までの5歳刻みの節目の方、40～74歳で3年間健診未受診の方に対して、健診未申込みでも受診票を送付し、受診勧奨する。 ②肺がん検診、女性検診を特定健診と同日実施（各地区1日ずつ）し、がん検診の受診率向上に取り組む				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援、介護予防・重度化防止)

市町村名	志布志市
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
地域包括ケアシステムの深化に向けた体制の構築		B		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☐ ①健康づくりの推進	☒ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備			
☐ ③介護予防の推進	☐ ④在宅医療・介護連携の推進			
☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム、保険者シート等に基づく地域分析結果等				
本市の高齢化率は県や国と比較すると高く、年々増加している。中長期的には生産年齢人口の急減と介護ニーズの更なる増加が見込まれる中、介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムを構築し、全ての人が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会の実現を目指す必要がある。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等				
①高齢化の進展により相談内容の複雑化・多様化することに伴い、地域包括支援センターに必要な専門職の確保しながら、包括的・継続的な相談体制を構築する必要がある。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組)				
①ケア会議を充実させ、地域課題を発見し、自立支援、重度化防止に向けた適切なケアマネジメントを図る。 ②地域共生社会の推進のため、包括的相談を受け止め相談者に寄り添いながら、伴走する支援体制を構築していきます。（重層的支援体制整備事業の取組）				
4 取組の数値目標及び実績（R6年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①総合相談／相談件数	①300件（R04：287件）	398件	-	-
②ケア会議等／回数	②40回（R04：29回）	32回	-	-
			-	-
5 その他実績（R6年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
①包括事例検討12回 介護予防のための地域ケア個別会議12回 困難事例ケア会議 3回 ②総合相談 335件（うち167件困難事例の対応）				
6 取組と実績を踏まえた課題				
①ケア会議を定期的で開催し、各専門職の連携や自立支援 重症化防止に向けた適切なケアマネジメントを図る必要がある。 ②高齢化の進展により、相談件数が増え、内容も多様化してきているが、専門職の確保が難しく十分な相談体制を構築できていない。				
7 課題を踏まえた今後の取組、改善策（R7年度～）				
①介護予防のための地域個別ケア会議については、多職種協働による自立支援、重症化防止に努め、今後は地域課題の発見・解決に向けた取組を推進する。 ②困難事例の個別ケア会議については、今後も関係機関への理解、周知を行っていき、必要時開催する。 ③ケアカフェにおいては、月1回実施する。 ④包括定例事例検討会については、今後も利用者の自立支援にとって、よりよい支援とするため定期的実施する。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	志布志市
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
介護予防・日常生活支援総合事業の充実		B		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☐ ①健康づくりの推進	☐ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備			
☒ ③介護予防の推進	☐ ④在宅医療・介護連携の推進			
☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム、保険者シート等に基づく地域分析結果等				
本市の総人口は年々減少し、65歳以上の高齢者数も減少局面に入っている。また、高齢者における後期高齢者の構成割合は、2010年以降5割を越え、2030年以降6割を越える推計となっている。高齢者等実態調査によると、「今後希望する生活場所」として、一般高齢者の約9割が「現在の住居」とし、住み慣れた地域における生活を希望している。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等				
①高齢者の心身の状態を把握しながら、一人ひとりが介護予防に取り組めるために、更なる身近な通いの場作りに取り組む必要がある。 ②高齢者は複数の慢性疾患に加え、フレイル状態になりやすい傾向があることから、高齢者一人ひとりに対して、生活習慣病等の疾病予防・重症化予防と介護予防を一体的に実施する必要がある。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組)				
①生活機能の維持向上のため、リハビリ専門職と地域を巡回し、生活状況を把握、評価し、生活の連続性が保たれるよう支援し、その事がさらに事業所での展開に繋がれるような仕組みづくりを行う。 ②身近な場所で気軽に介護予防に取り組めるよう自主グループによる、住民主体の通いの場づくりを推進する。 ③健康診査等のデータ分析による地域及び高齢者の健康課題の把握を行い、高齢者への個別的支援及び通いの場等への積極的な関与を行う、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を推進する。				
4 取組の数値目標及び実績（R6年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①要介護認定率	①17.9% (R04: 17.1%)	17.5%	-	-
②ころばん体操事業／実施会場数	②30か所 (R04: 25か所)	29か所	-	-
③8020達成者数	③35人 (R04: 28人)	19人	-	-
5 その他実績（R6年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
①通いの場（ころばん体操）の新規立ち上げ：4箇所。 週1回毎体操を実施する住民主体の通いの場実施地区の65歳以上の参加割合（R6年度：9.3%） ②高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業：ポピュレーション1,159人 ハイリスクアプローチ272人 長寿健診受診率 25.7%(R5確定値)				
6 取組と実績を踏まえた課題				
①ころばん体操の普及活動を図り、新規立ち上げを行い、通いの場での介護予防活動を推進する必要がある。 ②後期高齢者医療の分析により市の健康課題を明確化を行い、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を推進する必要がある。				
7 課題を踏まえた今後の取組、改善策（R7年度～）				
①健康づくり推進員養成講座で、「ころばん体操」の普及啓発を図り、新規開催地区の立ち上げにつなげる。 ②高齢者ふれあいサロンや長寿健診結果報告会で普及啓発を図り、一体的実施事業で重症化予防を図る。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援、介護予防・重度化防止)

市町村名	志布志市
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
在宅医療・介護連携推進事業		C		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☐ ①健康づくりの推進	☐ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備			
☐ ③介護予防の推進	☒ ④在宅医療・介護連携の推進			
☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム、保険者シート等に基づく地域分析結果等				
高齢者等実態調査によると、在宅要介護者及び一般高齢者の約9割、若年者の約7割が現在の住居にずっと住み続けたいとの意向を示している。 また、一般高齢者の約8割が、将来介護を受ける状態になっても自宅での介護を希望している。 介護者の約8割が、介護保険サービス等の利用しながら在宅で介護したい意向を示している。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等				
①一人暮らしの高齢者等の増加に伴い、それぞれが人生の終期をどう過ごすか考える機会を設ける必要がある。 ②在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面（日常の療養支援、入退院支援、緊急時の対応、看取り）を意識した取組が必要である。 ③複数の課題を抱える高齢者支援のため、多職種連携体制を構築する必要がある。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組)				
①一人ひとりが自分の人生を振り返り、将来の生活を考える機会が持てるよう、マイライフ・ノートの普及に努める。 ②在宅医療・介護連携推進事業において4つの場面ごとの現状分析・課題抽出、目標設定等を行い、切れ目のない在宅医療と介護の連携体制を構築する。 ③ACP（人生会議）について啓発を行う。				
4 取組の数値目標及び実績（R6年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①看取り数	①90件（R04：65件）	111件	-	-
②ACPの認知度：「よく知っている」と回答した人／割合	②10.0%（R04：6.4%）	-	-	-
③	③		-	-
5 その他実績（R6年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
①大隅地域入退院支援ルール運用状況調査 R06年度：1回 ②大隅地域入退院支援ルール運用に係るケアマネ会議、医療機関連絡会、医療・介護合同会議 R06年度：各1回 ③在宅医療・介護連携推進作業部会の実施 R06年度：2回 ④医療・福祉関係者向けACP講演会 R06年度：1回				
6 取組と実績を踏まえた課題				
①医療・介護従事者の関与のもと、ルールの手引きを作成したので、手引きに基づくルール運用を行い、年度ごとに手引きの内容を更新する必要がある。 ②地域として、医療・介護の資源が充分ではなく、具体的な取組に繋げることが難しい状況である。				
7 課題を踏まえた今後の取組、改善策（R7年度～）				
①医療・介護従事者の関与のもとルール運用を行い、年度ごとにルール（手引き）の更新を行う必要がある。 ②ACPの周知など短期的な取組を進めながら、在宅診療体制の確保など中長期的に取り組むべき課題への取組を進める必要がある。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援、介護予防・重度化防止)

市町村名	志布志市
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
認知症施策の推進		B		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☐ ①健康づくりの推進 ☐ ③介護予防の推進 ☒ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☐ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備 ☐ ④在宅医療・介護連携の推進 ☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム、保険者シート等に基づく地域分析結果等				
高齢者実態調査等によると、約6割が「自分や家族が認知症にならないか心配である」としている。また、認知症に関する相談窓口については、一般高齢者は「地域包括支援センター」とする割合が約3割、若年者は「知らない」とする割合が約4割でそれぞれ最も高くなっている。相談窓口の更なる普及啓発が必要である。認知症の人への接し方については、自身や家族に認知症の症状がない・いない方のうち、約4割が「どう接していいかわからないので、特になにもしない」と回答しており、認知症の理解や正しい知識の普及し、地域の見守りを啓発するとともに、早期診断・早期対応の取組を推進する必要がある。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等				
①後期高齢者の割合が高まるため、認知症への理解を深めるための早期介入できる体制の構築が必要である。 ②認知症サポーターの活用が十分に進んでいない状態である。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組)				
①認知症の早期の気づきや普及啓発のための取組を行う。 ②認知症施策の実施にあたっては、認知症の人が地域で自立した日常生活を送るための支援のほか、教育、地域づくり、雇用その他の認知症に関連する施策と有機的に連携し、関係部門と連携しながら、総合的に推進する。 ③ころばん体操やサロン活動を活用し、認知症の予防を推進する。 ④チームオレンジの活動を拡げ、充実を図る。				
4 取組の数値目標及び実績（R6年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①認知症サポーター養成数／人数	①3,600人（R04：3,481人）	3,523人	-	-
②認知症の相談窓口を知らないとする割合（一般高齢者、若年者）	②一般高齢者25%（R04：29.7%）、若年者35%（R04：42.9%）	-	-	-
③初期集中支援チーム支援者数／実人員	③40人（R04：33人）	37人	-	-
④認知症カフェ設置／設置箇所数	④8か所（R04：5か所）	7か所	-	-
5 その他実績（R6年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
①支援チームで認知症診断を受けた方の割合 R2 85%→R6 24% ②支援チームで介護保険サービスにつながった割合 R2 68%→R6 30% ③認知症地域支援推進員による「もの忘れ進行予防相談会」5回（18件） ④認知症声かけ訓練を小学校を対象に協働で実施した。				
6 取組と実績を踏まえた課題				
①認知症サポーターの新規養成数やもの忘れ進行予防相談会の件数が減っており、周知を図り、若年層からの認知症への理解が必要である。 ②認知症の総合相談は増加しており、認知症初期集中支援チームで鑑別診断や介護保険サービスにつなげることが必要である。				
7 課題を踏まえた今後の取組、改善策（R7年度～）				
①認知症について正しい知識を持ち、認知症の人やその家族に対してできる手助けをするサポーター養成講座を開催する。 ②認知症サポーター養成数の活動実績が不十分なので、スキルアップ講座の開催の実施をする。 ③身近な通いの場であるころばん体操で認知症についての講話やケアバスの普及等を行う。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	志布志市
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
介護人材確保及び業務効率化の取組の強化		D		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☐ ①健康づくりの推進	☐ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備			
☐ ③介護予防の推進	☐ ④在宅医療・介護連携の推進			
☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☒ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム, 保険者シート等に基づく地域分析結果等				
本市の総人口は年々減少しており、令和12年(2030年)には高齢化率が40%を超えることが予想されている。全国平均より高齢化は早く進行しており、中長期的な人口動態や介護ニーズの見込み等を踏まえて介護サービス基盤を確保する必要がある。				
2 1に対する課題(第9期計画における取組を設定した背景) ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等				
①介護人材不足の中、介護職に限らず介護分野で働く人材の確保・育成を行う必要がある。 ②手続きの電子化、ロボット・ICTの活用など業務負担の軽減を推進し、働きやすい環境の整備に努める必要がある。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組)				
①小・中学生の若い世代から介護を知る機会を増やし、介護に関する教育の啓発を図る。 ②合同就職説明会や移住定住施策等の周知を図りながら、介護人材確保に向けた取組を進める。				
4 取組の数値目標及び実績(R6年度末時点)				
項 目	数値目標	実績値		
		R6	R7	R8
①	①		-	-
②	②		-	-
③	③		-	-
5 その他実績(R6年度末時点) (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
①中学校3年生に向けて、「介護の仕事」を紹介するパンフレットの配布。 R06年度：未配布				
6 取組と実績を踏まえた課題				
②人材不足については、全国・全産業的な課題であり、介護分野のみの取組では問題の解消に繋がらない。				
7 課題を踏まえた今後の取組, 改善策(R7年度～)				
①国・県実施事業の事業所等への周知を図りながら、移住定住施策等と関係づけた地域での人材確保対策を実施する必要がある。 ②シルバー人材センターやハローワークと連携し、多様な人材確保に向けた取組を検討する。				